

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	おうちだ（児童発達支援事業）		
○保護者評価実施期間	R8年 1月 6日		R8年 2月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 2	(回答者数)	1
○従業者評価実施期間	R8年 1月 6日		R8年 1月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 11	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 2月 12日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種協働による丁寧な支援を提供している。	親元から初めて離れ活動するお子さんに、保育士、看護師、理学療法士などの専門職がゆったりした環境の中で個々に応じた支援を提供している。	子どもさんや保護者、所属園、リハビリ先の医療機関とも連携し、より個々に適した支援を実施する。地域での活動や地域資源の活用も行いたい。家族同士が交流できる機会も設けたい。
2	事業所内において、学童と触れ合う機会を設けている。	就学前の幼児のお子さんは、夏休みなど長期休暇中に小学生から高校生の児童と関わる機会がある。お互いに他児を意識し時間や環境を共有している。	安全に配慮しながら継続し、体験したお子さんや児童も聞き取りながら、改善していきたい。
3	法人内保育園において、同年代のお子さんと交流を行っている。	おうちだは、重症児のお子さん医療的ケアを必要とするお子さんが利用されており、同年代のお子さんと事業所内で関わることは難しい。その為、法人内の保育園において、同年代のお子さんと遊ぶ機会を月に1回以上実施している。	安全に配慮しながら継続し、交流したお子さんの感想も聞き取りながら、改善していきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児発の契約人数が少ない。	放課後等デイサービス事業の契約人数が多く、事業所に空きがない。	放課後等デイサービスを利用されている学童さんの卒園に伴い、児童発達支援事業の契約人数も見直していきたい。
2	児童が屋外で遊ぶ遊具や遊ぶ場所が無い。敷地内において花壇の花を見たり、散策したり水遊びなどは行っている。	屋内の多目的ホールなどを活用し、子どもたちが楽しく遊ぶことができる遊具などを整えると、課題解決につながる。	運動発達に必要なマット、クッション、座位保持椅子など購入し、子どもたちに合った支援に取り組んでいきたい。幼児のお子さんが年齢的に経験すると良い環境が少ない為、簡易的でも砂場があったり自然物に触れる機会を沢山作ってきたい。
3	保護者や家族と共に、事業所内で活動する機会が無い。例えば親子活動、参観日、家族交流など、保護者の希望に応じて開催する。	児童発達支援事業の契約者数は少なく、個々の状況に応じて家族対応を行っている。児童発達支援の事業所としては、親子活動などを計画した方が良い。	ご利用開始においては、保護者に付き添っていただきお子さんのケア方法を教えていただき、事業所からは活動や支援内容を保護者に見ていただいている。懇談など個別の場面で保護者のニーズを把握し、活動に取り入れる。